

上越市・妙高市の保健事業を視察 (文教厚生委員会)



上越市役所



妙高市役所

新潟県上越市は、人口 19 万人、面積 973 ㎏のまちです。

10 月 31 日、議会文教厚生委員会は、上越市の保健予防事業を視察しました。対応して下さったのは、2 人の保健師（副課長）さんです。「生涯を通じた健康づくりの推進」とし、胎児期から 65 歳以上の高齢期までを通じた保健指導を行っています。保健事業を「集団」から「個」へシフトし、国の事業も市の実態に合っているか検討し、課題改善で必要なのは、生活背景をみる訪問指導であると導きだしました。

健康実態を市民に知らせ、働き盛り世代の健康づくりも推進しています。そのため保健所と一緒に企業幹部の研修を行い、JA や商工会、市職員などの検診結果も提供をお願いしているとのことです。

これらのとりくみを通じて、第 6 期の介護保険では、要介護 4 と 5 の認定者が減少し、保険料を 6,358 円（前期比-167 円）に引き下げることができたとのことでした。

11 月 1 日は、新潟県妙高市の保険事業の視察です。同市は、人口 32,000 余人、面積 445 ㎏で、人口は本村よりやや少ないまちです。事業の目的を、「健康寿命の延伸」と「医療費の削減」と定め、市民検診、特定検診の結果でいねいな訪問指導を行っています。2014 年度から、健康妙高エコマイレージを実施、ラジオ体操の実施等の日々の健康づくりや買い物時のマイバック持参等の環境活動の実践のほか、市が主催する健康・環境イベント等に参加した場合に市がポイントを付与しています。本村もこのマイレージ制度に学び、すでに「とうかいヘルスマイレージ」を実施しています。

また宿泊型の新保健指導として、妙高高原健康ツアーが実施されていますが、本村は、エコマイレージ参加者の中から抽選で 25 名をこのツアーに招待しているとのことでした。

※たくさんの説明がありましたが、書ききれません。感じたのは、市民が、自分の健康を健診の結果を通じて知ること、実際の健康問題の事例などに学び、自分の健康への対応策を知るためのとりくみを重視し、ありがちな「自分のことは自分が一番わかっている」と、健診を軽視することが無くなる取り組み、保健師による丁寧な「結果」の見方個別指導が重要と、大枠ですが学びました。

議場も見せていただきました。
良かったところの報告です。

これは、上越市議会の演台です。討論などの原稿を載せる台の高さが結構あり、話をする議員や首長の顔が、少しでも上向きになるよう工夫されているこ



とがよかったと思います。議場内は、光の具合もあってか文字などが読み辛く感じるものがしばしばあります。スムーズな議事進行のためには、原稿は必要です。